広報誌

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
愛知県支部

日赤あいち

No.164
2025. 秋

- CLOSE UP
  みんなで育てる、子どもの笑顔
  「親子レスキュー」「夏休み みんなの空き地プロジェクト」
- TOPICS
- 青少年赤十字の取り組み
- 遺言・相続セミナー＆相談会・体験会
- Information

Information インフォメーション

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院からのお知らせ

「第16回中村日赤ふれ愛まつり」を開催します!

令和7年11月22日（土）午前10時から午後３時まで、当院を会場に「第16回中村日赤ふれ愛まつり」を開催します。今年も特設ステージでのイリュージョンショーやコンサート、当院スタッフによる体力チェックコーナー、さらに災害時に力を発揮する様々な車両の展示などを行います。関係機関・企業のご協力のもと、大人から子どもまでお楽しみいただけるコンテンツを揃えて皆様をお待ちしております。

入場は無料、雨天決行です。ぜひ、皆様お誘い合わせのうえご来場ください。

赤十字健康教室<第200回記念講演会>を開催します!

令和７年11月18日（火）午後２時から午後４時まで、「赤十字健康教室」を開催します（場所：内ヶ島講堂）。当院の「赤十字健康教室」は、昭和58年２月の第１回から通算し、本年11月に第200回を迎えます。毎年11月の健康教室は「世界糖尿病デー」にちなみ、テーマを「糖尿病」として開催しています。今回は特別講師に、中部ろうさい病院名誉院長堀田饒（ほったにぎし）先生をお招きし、「糖尿病への意識を変えよう－患者さんと共に歩み、教えられた60年－」と題してご講演いただきます。また、当院の管理栄養士も講演いたします。ご興味のある方は是非ご参加ください。

日本赤十字豊田看護大学　入試情報

赤十字の理念のもと、一緒に看護師を目指そう

日本赤十字豊田看護大学は80余年の歴史を持つ中部圏唯一の赤十字の看護大学です。医療・保健・福祉から災害救護や国際活動まであらゆる現場で活躍できる看護師を目指せるよう、災害看護や国際交流、実習に力を入れたプログラムを用意しています。看護教育に特化した充実した学修環境の中で、看護の知識と技術をしっかりと身につけることができます。

今年度の推薦選抜の出願が11月1日から始まります！学生全員が同じ夢を持ちモチベーション高く学び合える本学で、一緒に看護師を目指しませんか？お待ちしています。

▲入試情報はこちら

2026年度入試情報（2026年4月入学）
注:入試科目や出願期間等、詳細は本学ホームページをご覧ください。

試験名	試験日	合格発表日
赤十字特別推薦選抜	11/29（土）	12/5（金）
高等学校長推薦選抜		
社会人特別選抜		
大学独自選抜特待生プラス	1/31（土）	2/6（金）
大学入学共通テスト利用選抜（前期A・B）	個別試験なし	2/10（火）
大学入学共通テスト利用選抜（後期）	3/3（火）	3/6（金）
大学入学共通テスト利用選抜（赤十字6看護大学連携併願選抜）	個別試験なし	3/2（月）

活動資金　ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶大久保眼科 様
- ▶幸栄電気株式会社 様
- ▶ホッコー株式会社 様
- ▶八島エンジニアリング株式会社 様
- ▶株式会社ジョイフル設備 様
- ▶株式会社ニシ 様
- ▶株式会社畑中建築事務所 様
- ▶株式会社フェニックス 様
- ▶一般財団法人坂文種報徳会 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

クレジットカード･Amazon Payでのご協力はこちら ▶

PRESENT

ハートラちゃんブロックメモ

ハートラちゃんのブロックメモを抽選でプレゼント　5名様

応募先
Mail：aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax：052-971-1590
郵送：〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50
日本赤十字社愛知県支部
「日赤あいちプレゼント」係

明記事項
①お名前　②郵便番号・ご住所　③電話番号
④年齢　⑤「日赤あいち」の入手先
⑥ご意見・ご感想など

締切／令和７年12月19日必着

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　愛知県支部　日赤あいち
〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50　TEL 052-971-1591（代表）
発行元／日本赤十字社愛知県支部　発行日／令和７年10月１日

X
活動の詳細や最新情報はウェブサイトかSNSへ
日赤あいち　検索
https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/
Instagram
NISSEKI_AICHI

青少年赤十字の取り組み

子ども新聞プロジェクト

2011年3月に発生した東日本大震災をきっかけとして朝日新聞社と協働で開始した本プロジェクトは、2012年から始まり今年で12回目になりました。「過去の震災から学んだ教訓を防災・復興につなげよう」を目的に、子どもたちが取材をした後に実際の新聞を作り、加盟総学校と在籍するすべての児童へ配布することで防災教育の教材として活用されています。

今年度は、子ども記者として愛知・岐阜県の小学6年生9名が、能登半島地震の被災地である石川県七尾市、輪島市、能登町を訪れました。地震直後の避難や救助活動の様子、避難所生活の様子などを聞いたり、震災後の迅速な復興に向け、力を合わせて取り組んできた内容について取材したりしました。また、関西大学の奥村与市志弘教授の指導のもと、取材した内容をまとめ、新聞記事を作成しました。

参加者の声

何事も一人で頑張るのではなく、周りの人たちと協力することが大事だと思いました。もし、そのような災害にあった時には、だれかの助けを待つのではなく、自分から行動できるよう日頃からの備えが大切だと考えました。

モンゴル国際交流2025

青少年赤十字の実践目標のひとつである「国際理解・親善」に基づき、平成19年からモンゴル赤十字社と国際交流活動を行うことで、赤十字の諸活動及び青少年赤十字事業についての理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を図ります。

令和7年度はモンゴル赤十字メンバー７名とモンゴル赤十字社職員2名が来日し、7月2日（水）～8日（火）の約1週間滞在しました。

浴衣の着付けや有松絞りなど日本の伝統的な文化に触れる体験から、加盟校訪問や名古屋第二病院の訪問など日赤の取り組みを知ってもらう見学まで様々な活動を行い、モンゴルメンバーは楽しそうな様子で積極的に参加していました。限られた時間での交流でしたが、別れを惜しむほど、思い出深い国際交流をすることができました。

あなたの思いをつなぐ、遺言･相続セミナー＆相談会･体験会

日本赤十字社愛知県支部では、愛知県司法書士会、名古屋法務局と共催で、将来のために知っておきたい遺言・相続・遺贈に関する講演のほか、相談会や遺言書作成体験会を行います。

日　時　2025年12月6日（土）13：30～16：00
場　所　愛知県司法書士会館（名古屋市熱田区新尾頭一丁目12番３号）
主　催　愛知県司法書士会
日本赤十字社愛知県支部
名古屋法務局
内　容　遺言・相続・遺贈に関する講演
遺言・相続に関する相談会
自筆証書遺言書作成体験会
定　員　180名
申込方法　11月21日（金）までにウェブサイト、FAX：052-683-6288のいずれかの方法で愛知県司法書士会宛てにお申し込みください。
お問合せ　愛知県司法書士会 TEL：052-683-6683

お申込みはこちら

https://www.ai-shiho.or.jp/topics/20251206/

CLOSE UP

みんなで育てる、子どもの笑顔

日本赤十字社愛知県支部では、子どもと子育て世代を対象に「安心」と「学び」を届ける活動を展開しています。命を守る知識の普及から、居場所づくりまで、地域とともに未来を育んでいます。

今号では、水辺の事故を防ぐ「親子レスキュー」と、夏休みの居場所づくり「夏休み みんなの空き地プロジェクト」について紹介します。

親子で学ぶ、命を守る力「親子レスキュー」

「親子レスキュー」とは

毎年夏になると、海や川、プールといった水辺でのレジャーを楽しむ人が増える一方、水の事故も多発します。特に自然水域では予期せぬ水の流れや波、天候の急変などにより危険が高まり、深刻な事故に至るケースも少なくありません。こうした状況を受けて、日本赤十字社愛知県支部では、7月29日（火）に愛知県西尾市の「吉良ワイキキビーチ」において、小学生とその保護者を対象とした水の事故防止講習「親子レスキュー」を開催しました。

午前と午後の2回合わせて40名の親子が参加し、着衣泳やライフジャケットの使用体験、身近な道具を使って浮く工夫など、水の事故に対する備えを学びました。

夏休みに多い小学生の水難事故

— 親子で備える意義 —

子どもの水の事故の背景には「水辺に対する油断」「泳ぎに対する過信」などがあると言われています。加えて、「溺れた子どもを助けようとした親が二次災害に遭う」という痛ましい事故も少なくありません。

「親子レスキュー」は、「子どもだけの体験型講習」ではなく、「親と子がともに学ぶ」という点が最大の特色です。

実践的プログラムで学ぶ命の守り方

参加者は、まずは日常着を着たまま海に入る「着衣泳」に挑戦し、水を含んだ服の重みや動きづらさを体験しました。水の中であわてて動くと、かえって体力を消耗し危険になるため、「無理に泳がず、呼吸を確保して浮きながら救助を待つ」という考え方を、実際の体感を通して学びます。

その後、ライフジャケットの正しい着け方を学びました。「ゆるすぎると水の中で脱げてしまう」など、命を守るための装着のポイントを一人ずつ丁寧に確認しました。

また、ペットボトルを使って浮く方法の体験も行われました。「水辺で事故に遭ったとき、身近な物が命を救う道具になる」という視点は、参加者にとって大きな気づきとなりました。

ボランティアと連携した講習運営

今回の講習では、西尾市地区と西尾市赤十字奉仕団の皆さんが、会場の設営や参加者の受付・案内などにご協力いただきました。地域で赤十字活動を支える奉仕団の存在は、講習の運営において欠かせないものであり、地域住民にとっても「赤十字をより身近に感じる」きっかけとなります。

また、赤十字水上安全法のボランティア指導員9名が講師として参加し、長年の経験と専門的な知識を活かして、きめ細やかな対応を行いました。海辺という環境下で、子どもたちの安全を最優先にしながら指導を行うには、豊富な知識と状況判断力が必要です。

命を守る行動は、学びと地域の支えから

こうした取り組みの参加者が広がっていくことが、命を守る社会の基盤となります。赤十字は今後も、地域とともに「誰かの命を守れる人」を一人でも多く育てていけるよう、学びの機会を持ち続けていきます。

「遊びながら、真剣に命のことを考えた一日」

参加者の声 Voice

もっと泳ぎが上手になって、自分も人を助けられるようになりたい！

おぼれた時にどうすればいいかを学ぶのは初めてだった。とても貴重な体験だった。

ライフジャケットの浮力を体で感じられた。ちょっと怖かったけど楽しかった！

夏休みは家族みんなで海で遊ぶことが増えるので、万が一のときは今日学んだことを生かしたい。

夏休み みんなの空き地プロジェクト

「夏休み みんなの空き地プロジェクト」とは

子どもたちが安心して過ごせる居場所を届けたい、との想いからはじまったのが「夏休み みんなの空き地プロジェクト」です。今年で3回目の開催となり、名古屋市緑区のUR鳴子団地・アーバンラフレ鳴子と千種区のUR千代が丘団地の2カ所で実施しました。連日、多くの子どもが参加し、大きな笑顔と賑わいに包まれました。

遊びも学びも！子どもたちが自由に過ごせる場所

今年は7月28日（月）～8月1日（金）、8月25日（月）～8月29日（金）までの合計10日間、UR都市機構の団地集会所を「空き地」として開放しました。朝10時から夕方17時まで、赤十字の青年ボランティアだけでなく、一般社団法人愛知PFS協会や日本福祉大学の学生が中心となり、様々な体験プログラムや学習支援を実施。「空き地」として自由に安心して過ごせる空間を提供することで、子どもたちは時に友達と元気いっぱいに遊び、時に静かに読書や勉強に向き合うなど、目的に縛られずそれぞれが自分らしい時間を過ごしました。室内のボードゲームで遊んだり工作したりする子ども、ボランティアを巻き込んでかくれんぼする子ども、屋外で鬼ごっこをはじめる子どもたちもいました。さらに食事やおやつの時間は他学年やボランティアみんなが一緒に卓を囲み、笑顔で「いただきます」をする光景は、この取り組みならではの温かなひと時となりました。

ファイティングイーグルスの選手が来訪

8月26日（火）、プロバスケットボールチーム「ファイティングイーグルス名古屋」の伊藤治輝選手がUR千代が丘団地を訪問。子どもたちと繰り広げられたフリースロー対決は大盛り上がりとなり、会場には歓声が響き渡りました。真剣な眼差しでシュートを放つ子どもたちに、伊藤選手も本気で応戦。子どもたちは「プロ選手のボールコントロールがすごい！」と興奮した様子で話してくれました。

別れ際には伊藤選手から子どもたちへサインとグッズのプレゼントがありました。子どもたちが嬉しそうにプレゼントを抱えている様子が見られ、素敵な夏の一幕となりました。

今後に向けて

令和5年度からはじまった「夏休み みんなの空き地プロジェクト」。日本赤十字社愛知県支部は、今後も多くの団体・企業と手を取り合い、多様な体験機会を通じて子どもたちの笑顔を育んでいきます。